

ヒルフェ通信(10月号)

❀ そっと寄り添いやさしくサポート ❀

「公益社団法人成年後見支援センターヒルフェ」は高齢者、精神障がい者、知的障がい者等の権利の擁護及び福祉の増進に寄与することを目的として、東京都行政書士会が設立した法人です。



◆第16期社団基礎研修が始まりました

本年は、6月・7月の東京都行政書士会研修センターの基礎研修を修了した16期生のうち、36名の方からヒルフェ入会の申し込みをいただきました。そして、9月16日より社団の基礎研修を開始しています。今年度の基礎研修は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、原則としてZOOMによるオンライン研修を行うこととなりました。

第1回「法定後見の実務と注意点・問題点」ではヒルフェの山崎理事長を講師にお迎えし、講義冒頭のご挨拶では、成年後見制度やヒルフェの現状などについてもお話しいたいただき、受講生に対しても今後の受講に熱いエールを送っていただきました。

研修部では、新しいやり方に四苦八苦しながらも、安心して受講していただける環境と、厳しい状況下での受講生の皆様の支援となるような運営に努めてまいりたいと思います。

◆みんなで知ろうシリーズ【2】

認知症への理解～ 認知症の人の気持ち、あなたにわかりますか？

* 会話～言いたいことの言葉が見つからない

認知症の症状には、話す・聞く・読む・書くという、言葉にまつわるあらゆる機能が低下する「失語」があります。言いたいことが言えないもどかしい気持ちはとても苦しいものです。(思い余って暴力も・自分の気持ちを上手に言葉で表現できないがゆえの苛立ちと自己防衛)

・本人の気持ち・・・「相手が何を言っているのかわからない」「まともにしゃべれなくてイヤになる」「言葉が見つからない」「人の名前が出てこない」「あれは何と言う物だっけ?」「どうしてわかってくれないんだろう」

・本人の希望・・・ゆっくり話してほしい。こちら側の気持ちを想像してほしい。言動がのろくても、思いやりを持ってほしい。「早くして」と焦らせないで欲しい。言っても通じないと思わないで。無視しないでほしい。



・家族の努力・・・同じ話を何度でも聞く。話をする時間をつくる。昔の話を聞くようにする。いろいろな人に話相手になってもらう。イエス・ノーで答えられるような質問にする。ユーモアをもって話すようにする。すぐ声をかけられるように、なるべくそばにいる。

* 記憶 ～みんなが自分の知らない事を言う 初めて聞いた!

認知症の人は、物忘れを指摘されてもすることもあります。うそでも言い逃れでもなく、自分がした行為そのものを覚えていないためです。

・本人の気持ち・・・「何か悪いことをした?」「私が忘れたわけじゃない」「私にだけ教えてくれなかった」「何を怒っているのかしら?」「私のせい?」

本人は記憶が無いから、自分の失敗を認識できませんから「自分以外の誰かがやった」と考えます。この答えが、認知症の人にとっては最も納得できるからで悪気はないのです。咎められたり叱られたりしても、「自分がそんな失敗をするなんてありえない」と強く思うので、本人にとっては不当な扱いですから、怒ったり、不機嫌になったりするのは、ごく自然なことです。

